

第2学年1組 図画工作科学学習指導案

【日時】令和7年7月23日(水) 9:20~10:05 【場所】2年1組教室 【指導者】秋山 紗貴子

本授業の参観の視点

児童は寒天ゼリーという材料に出合い感触を味わいながら、並べる、積む、光を透過させる等、様々なことを試していきます。これまでの経験を生かして、思い思いに表現を楽しむ児童の姿をご覧ください。

1 題材名 ぷによ むぎゅ きらっ

2 題材の構想

(1) 題材について

本題材は、着色した寒天ゼリーを用いて並べる、積む、光を透過させるなどの活動を通して、思い付いたことを試しながら、表現することをねらう。食紅で着色した寒天ゼリーを光に透かして見ると、輝いているように見える。また、光を透過させて机の上や白い壁などに映すこともでき、机上や壁までもが表現の場となり、児童は思い思いの活動場所を選択していくだろう。寒天ゼリーは、感触が独特で、触った心地よさを感じることができる。握ったり、つぶしたりすることで形を変えることが容易な材料である。補助材料に、フィルムケースやカップ、蓋付きカップなどを用いることで、自分が好きな色の寒天ゼリーをカップに詰め込んで並べる、水に浮かせて寒天ゼリーの動きを楽しむ、カップに入れてパフェに見立てるなど他題材や他教科で学んだ経験を生かしながら活動を展開する姿が期待できる。このように、身近な環境を利用して、思いのままに発想や構想を繰り返し、寒天ゼリーの感触を楽しんだり美しさを感じたりすることができる題材であると考えられる。この題材の経験が、柔軟な発想や流暢に発想する力を高め、テーマをもとに自分が表したいことを考える題材へとつながっていく。

(2) 児童について

本学級の児童は、題材「ときめき！まほうのキャンディー」で、色と味を関連付ける製作活動を通して、色に対する自分なりのイメージをもつことができるようになった。また、題材「だんちゃん星のふしぎないきものたち」では、段ボール片を並べたり組み合わせたりしながら、思い思いに想像した生き物を製作することができた。題材「しんぶんしとなかよし」では、新聞紙を主材料として折ったり、曲げたり、丸めたりして思い思いの造形活動を楽しんだ。このように、新聞紙や段ボール等の身近な物を主材料として試行錯誤しながら造形活動を楽しむ姿が見られる。また、これまでの学習から色や形を基に選ぶことができるようになってきている。ある程度見通しをもって活動できるが、活動時に発想が広がっていく様子はあまり見られない。

(3) 指導について

導入では、7色の寒天ゼリーをケースに入れて用意する。光を透過した寒天ゼリーの美しさに気付くことができるように、透明な容器に入れた寒天ゼリーをライトで照らしながら紹介する。紹介後、全ての色の寒天ゼリーが見えるように教室の様々な場所に寒天ゼリーを置くことで、児童が活動を自然と共有することができるようにする。展開では、児童の気付きに合わせ、蓋付きカップ、フィルムケースなど透明な容器を準備することで、配色を考えながら並べたり積み重ねたりする姿が見られるようになり、発想の広がりが期待できる。児童がテラスなどで活動し始めることも考えられる。その際には、児童の発想を称賛することで、活動場所を考えるきっかけにしたい。活動が広がることで、カップに寒天ゼリーと水を入れて光に透かして美しさを楽しむ、寒天ゼリーを水に浮かべて色や動きを楽しむ、草花と寒天ゼリーを盛り付けてパフェに見立てるなど思い思いに表現を楽しむだろう。さらには、友達と「パフェ屋さん」などのごっこ遊びをしながら、友達の好みを尋ね、色と味のイメージを関連付けながら活動する展開も考えられる。活動途中には、「マイアートマップ」として写真や動画を撮影したりする児童もいるだろう。終末では、児童はタブレット端末で録画しながら、本時の活動の流れを辿ったり気に入った活動を解説したりすることで、「マイアートマップ」として蓄積していく。自らの活動や友達との活動を振り返らせることを通して、おもしろさや美しさに気付き、思い思いに表現することができたことへの満足感や充実感を味わわせたい。

(4) 期待する「回遊する学び」について

本題材における児童の姿を小学校全体テーマの「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力に関連付け、下記のように整理する。

ステージD「実生活・実社会」

休み時間に粘土で寿司屋さんごっこをしたな。寒天ゼリーで何屋さんができるかな。そうだ!!寒天ゼリーでパフェ屋さんごっこをしよう。



経験したことを活動に生かそうとしている。(休み時間【学びに向かう力、人間性等】)

→ 児童の姿を価値づける。教師も児童の遊びに入る。

ステージC「他教科等」

春は桜餅があっただけ、もうないな。夏はゼリーがいっぱいだな。そうだ!見た目が涼しそうな青をカップに入れてお店屋さんのゼリーのようにしてみよう。



季節を通して町の変化に気付いている。生活科「まちをたんけん 大はっけん」【知識及び技能の基礎】

→ 生活科のメモを掲示しておくことで、経験を思い出すことができるようにする。

ステージB「同教科」

赤色が好きだから、赤色の寒天ゼリーを使おう。



自分の好きな色を選び、どのように表すかを考えている。(図画工作科「ビー玉くんの大ぼうけん」「カラフルシャボン!」【思考力・判断力・表現力等】)

→ 児童と対話する中で、色に込めた思いやイメージを引き出す。

ステージB「同教科」

- ・この寒天ゼリーは赤色だから、いちご味にしよう。
- ・青を使うと海みたいな感じがするな。



色とイメージを関連付けている。
(図画工作科「ときめき!まほうのキャンディー」)

→ 児童と対話する中で、色に込めた思いやイメージを引き出す。

ステージA「同題材・領域」

- ・寒天ゼリーは光にあてるときれいだな。
- ・外で太陽の光にあてるともっときれいになるかな。外へ行ってみよう。
- ・水を入れるときれいだよ。並べてみよう!



発想や構想を繰り返し、おもしろく美しくなるように考えている。
(図画工作科「ぶによ むぎゅ きらっ」【思考力、判断力、表現力等】)

→ 並べる、積む、光を透過させるなどの活動を試している児童を称賛する。

題材のゴール：
寒天ゼリーを使
って楽しもう。

ステージD「実生活・実社会」

- ・この前食べたみかんゼリーに似ているぞ。
- ・この前見た、プロジェクションマッピングみたいだな。もっと色を使ってきれいにしよう。
- ・この前見た虹のようなタワーができたぞ。



日常生活で見たものや経験したことを活動に生かそうとしている。
(日常生活【学びに向かう力、人間性等】)

→ 日常生活と関連付けた発言をしている児童を全体に紹介して広げる。

3 題材の目標と評価規準

(1) 題材の目標

寒天ゼリーを並べる、積む、光を透過させるなどの活動を通して、思い付いたことを試しながら表現を楽しむことができるようにする。

(2) 評価規準

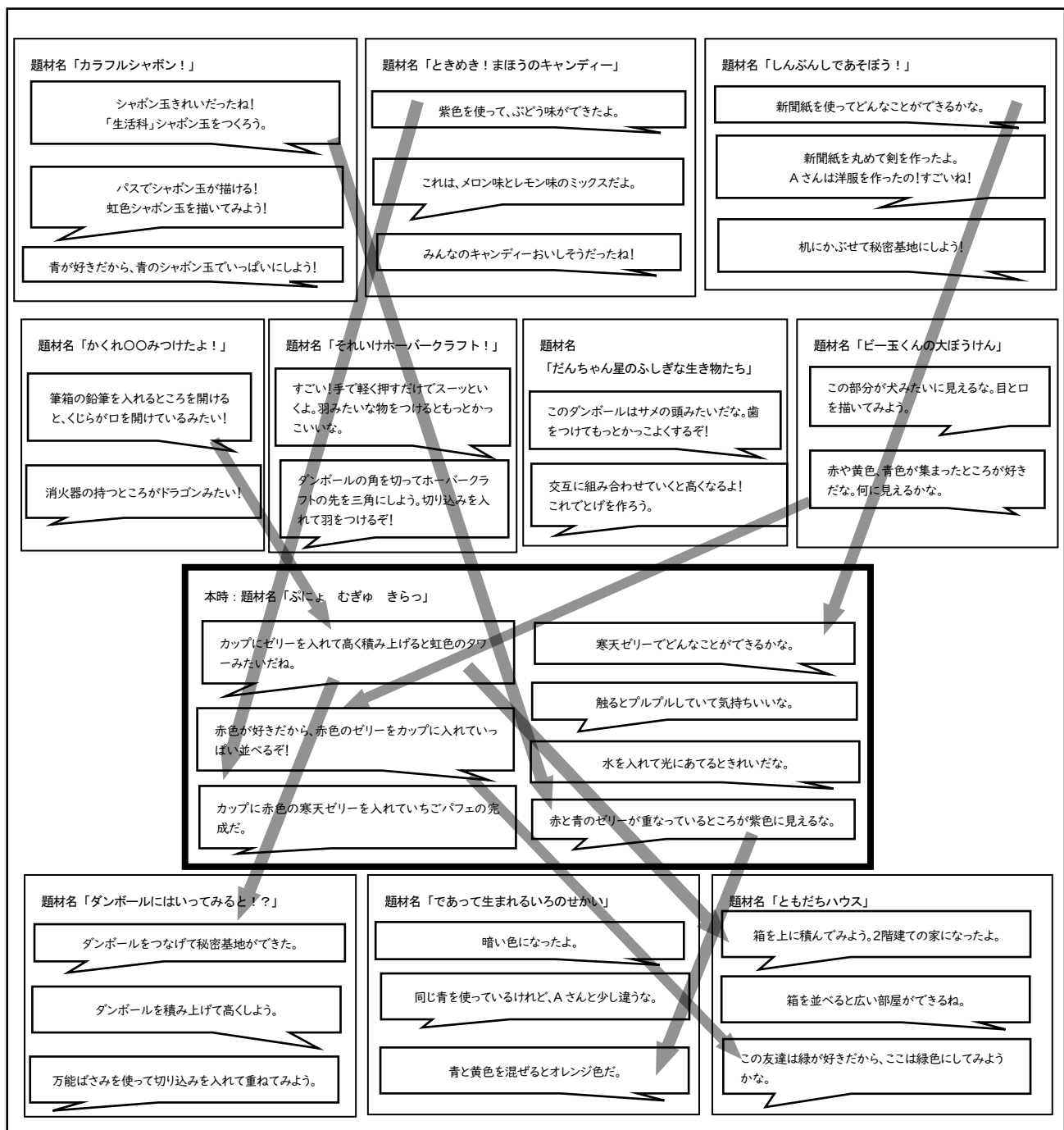
ア 手や体全体を働かせて寒天ゼリーを使って色の組み合わせを工夫したり、光を透過させたりして表している。 【知識・技能】

イ 寒天ゼリーを並べたり積み重ねたりしながら、おもしろく美しくなるように考えている。

【思考・判断・表現】

ウ 楽しく表現することで、つくりだす喜びを味わおうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

4 本時とこれまで・これから題材との関連 (→は、児童の思考のつながり)



5 本時の指導（1／1）

（1）指導目標

寒天ゼリーを並べる、積む、光を透過させるなどの活動を通して、思い付いたことを試しながら表現を楽しむことができるようにする。

（2）展開（波線部は「回遊する学び」に関わる手立て）

学習活動と児童の反応（「」）	教師の働きかけと形成的評価（◆）
1 本時の材料を知り、活動の見通しをもつ。（5分） - 今日の材料は何だろうな。 - うわあ、きれい！ - 早く触ってみたいな。 - 最初は何色にしようかな。 - 何をしようかな。並べてみようかな。	1-(1)寒天ゼリー入りのアクリルケースを下からライトで照らして紹介することで、活動への意欲を引き出し、光が透過する美しさに気付くことができるようにする。 1-(2)どのような活動ができそうかを尋ねることで、活動の見通しをもたせ、児童と共にめあてを立てる。 1-(3)透明なアクリルケースに寒天ゼリーを入れ、布で覆い机上に置いておく。
めあて かんてんゼリーをつかったのしもう。	
2 どのようなことができるか試す。（32分） - どの色もきれいだな。赤色の寒天ゼリーにしよう。プルプルしている。気持ちいい！ - 寒天ゼリーを光にあてるときれいだよ！ - フィルムケースに入れてみたらきれい。もっとたくさん入れてみよう。 - 透明カップに入れたものを積み重ねたら虹色のタワーみたいだな。 - 並べるときれいだね。私は黄色がきれいだと思うからもっとたくさん並べてみようかな。 - 机の上の白いところに、黄色が映ってきれいだね。他の色も並べてみよう！ - カップの中に赤と青の寒天と水を入れて外で見たら、紫色に見えるよ。 - 水を一緒に入れるときれいだよ。 - テラスに行ってみよう。太陽の光にあてると、きつときれいだな。 - カップに寒天ゼリーと水を入れたら、おいしそう。青の寒天ゼリーはソーダ味だよ。 - いいね！私はメロンソーダにしようかな。ねえジュース屋さんになしない？ - 寒天ゼリーをカップに入れて、この葉っぱを入れて、パフェが完成！	2-(1)寒天ゼリーの特長に気付いた後、補助材料として、フィルムケース、カップ等を出したり、教室南側のドアを開けておいたりすることで、多様な表現に向かうことができるようにする。 2-(2)寒天ゼリーをフィルムケースやカップに入れて並べたり積み上げたりしている活動を称賛し、<u>並べ方や積み方について尋ねることで、表したいことを自ら見付けたよさに気付くことができるようにする。（A）</u> 2-(3)<u>おもしろさや美しさに気付いている活動を称賛することで、活動を広げることができるようにする。（A）</u> 2-(4)これまでの題材を生かしている児童に表現の理由を尋ねたり、価値付けたりすることで、<u>学びの連続性を意識できるようにする。（B）</u> ◆ 寒天ゼリーの感触を楽しんだり、色の重なりや光に透かした美しさを感じたりして試しているか。（観察）【思考・判断・表現】 B 並べたり、積み重ねたりした寒天ゼリーがおもしろく美しくなるように考えている。 C→ 教師と対話をしながら思いを引き出し、友達の表現を紹介したりする。 2-(5)<u>カップに水を入れて寒天ゼリーを浮かべたり、かき氷やパフェなどに見立てたりしている活動を称賛する。季節を感じる食べ物に見立てている児童には、味やイメージについて尋ね、生活科における学びとつなげていく。（BCD）</u>
3 本時の活動を振り返る。（8分） 私は、はじめて寒天を手で触りました。プルプルしていて気持ちよかったです。ケースに入れて並べていると、赤と青が混ざって紫色に見えました。ケースに置いた床に、赤や黄色の光が映ったので、とてもきれいでした。水に入れてもキラキラ光ってきれいでした。	3 タブレット端末で録画をしている児童の側で、児童の思いを共感したり受け止めたりすることで、満足感や充実感を味わわせる。数人の児童に「マイアートマップ」に残した内容を発表させ、学級全体で本時の活動の充実感を共有する。